

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース/Bコース

運用報告書(全体版)

第20期 (決算日2023年11月20日)

作成対象期間 (2022年11月19日～2023年11月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

	Aコース	Bコース
商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	2003年11月19日から2028年11月20日までです。	
運用方針	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・業学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定します。	
	実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為	実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
主な投資対象	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース/Bコース	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド (以下「マザーファンド」といいます。) 受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース/Bコース	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場・未登録の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時に、原則として繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額の水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

<Aコース>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円ヘッジベース)	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
16期(2019年11月18日)	20,974	1,000	8.9	399.46	3.0	96.2	—	45,496
17期(2020年11月18日)	26,336	1,300	31.8	497.11	24.4	93.3	—	28,050
18期(2021年11月18日)	24,150	1,200	△ 3.7	540.51	8.7	97.2	—	20,237
19期(2022年11月18日)	18,903	950	△17.8	465.92	△13.8	92.8	—	14,407
20期(2023年11月20日)	15,794	500	△13.8	396.14	△15.0	95.0	—	9,740

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数(=ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円ヘッジベース))は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(US\$ベース)を当社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。
(出所)ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円ヘッジベース)	騰落率		
(期首) 2022年11月18日	円	%		%	%	%
	18,903	—	465.92	—	92.8	—
11月末	18,863	△ 0.2	463.28	△ 0.6	93.8	—
12月末	18,946	0.2	460.52	△ 1.2	94.8	—
2023年1月末	19,070	0.9	470.42	1.0	94.6	—
2月末	18,213	△ 3.7	442.11	△ 5.1	97.7	—
3月末	17,544	△ 7.2	440.56	△ 5.4	97.3	—
4月末	18,598	△ 1.6	448.40	△ 3.8	98.0	—
5月末	18,467	△ 2.3	434.85	△ 6.7	97.5	—
6月末	18,382	△ 2.8	431.90	△ 7.3	96.5	—
7月末	18,546	△ 1.9	439.59	△ 5.7	96.8	—
8月末	18,334	△ 3.0	439.23	△ 5.7	97.4	—
9月末	17,412	△ 7.9	418.39	△10.2	97.2	—
10月末	15,511	△17.9	385.42	△17.3	97.4	—
(期末) 2023年11月20日	円	%		%	%	%
	16,294	△13.8	396.14	△15.0	95.0	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

<Bコース>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
16期(2019年11月18日)	24,147	1,400	7.9	533.08	2.3	96.2	—	45,226
17期(2020年11月18日)	28,991	1,500	26.3	643.01	20.6	94.8	—	30,332
18期(2021年11月18日)	29,212	1,500	5.9	770.40	19.8	97.2	—	24,916
19期(2022年11月18日)	28,491	1,400	2.3	829.19	7.6	93.5	—	22,062
20期(2023年11月20日)	26,405	1,300	△2.8	795.32	△4.1	95.4	—	16,381

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数(=ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円換算ベース))は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(US\$ベース)を当社が独自に円換算したものです。
(出所) ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	騰落率		
(期首) 2022年11月18日	円	%		%	%	%
11月末	28,491	—	829.19	—	93.5	—
12月末	28,185	△1.1	817.23	△1.4	93.8	—
2023年1月末	27,245	△4.4	779.41	△6.0	94.8	—
2月末	27,090	△4.9	786.40	△5.2	94.6	—
3月末	27,101	△4.9	775.31	△6.5	97.7	—
4月末	25,708	△9.8	759.67	△8.4	97.3	—
5月末	27,482	△3.5	779.82	△6.0	98.0	—
6月末	28,533	0.1	791.83	△4.5	97.5	—
7月末	29,587	3.8	819.71	△1.1	96.5	—
8月末	29,176	2.4	814.99	△1.7	96.8	—
9月末	30,028	5.4	848.62	2.3	97.4	—
10月末	29,272	2.7	830.97	0.2	97.2	—
(期末) 2023年11月20日	26,194	△8.1	769.05	△7.3	97.4	—
	27,705	△2.8	795.32	△4.1	95.4	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

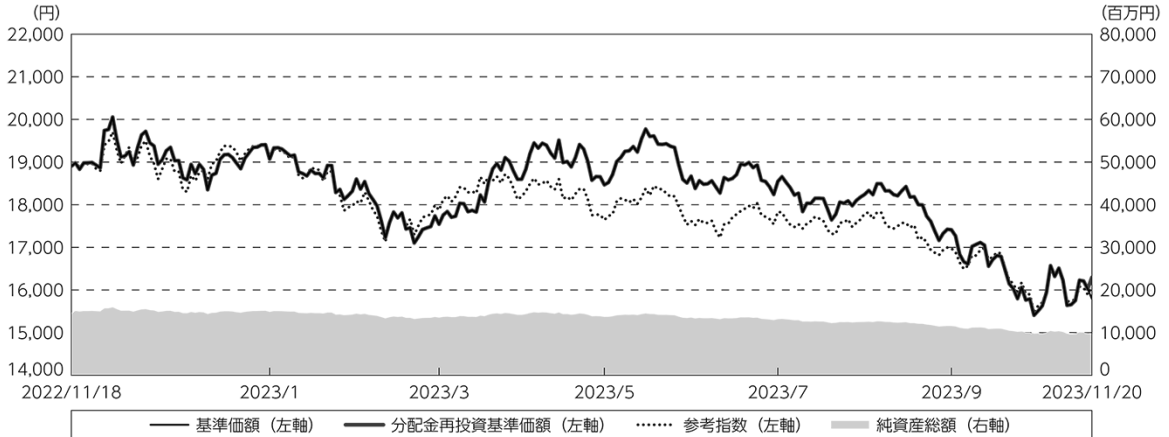
*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

<Aコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期 首：18,903円

期 末：15,794円 (既払分配金(税込み)：500円)

騰落率：△13.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2022年11月18日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円ヘッジベース)です。参考指数は、作成期首(2022年11月18日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首18,903円から期末15,794円となりました。

- ・ 2023年1月、2022年12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことや、米国のISM非製造業景況感指数が市場予想に反して低下したことなどから、FRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め長期化への警戒が和らいだこと、12月の米CPI(消費者物価指数)上昇率が前月比で低下したことなどにより、FRBの利上げペースの更なる鈍化が期待されたこと
- ・ 2月、1月の米CPI上昇率や2月の米PMI(購買担当者景気指数)などが市場予想を上回ったことでFRBによる利上げ長期化への警戒感が高まったこと
- ・ 3月、米地銀の経営破綻をきっかけに信用不安が広がったこと

<Aコース>

- ・ 4月、3月の米PPI（生産者物価指数）上昇率（前月比）が市場予想を下回るなどインフレ率の鈍化傾向が見られたことから、利上げ打ち止め期待が高まったこと
- ・ 6月、5月の米ISM製造業景況感指数が7ヵ月連続で景気の拡大・後退の分岐点となる50を下回ったことや、5月の米雇用統計において失業率が上昇し平均時給の伸びも鈍化したことなどから、中旬に開催されるFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと
- ・ 7月、6月の米CPI上昇率が市場予想を下回りFOMCにおいて政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと、大手金融機関などの4－6月期決算が市場予想を上回ったこと
- ・ 8月、大手格付機関が米国債の格付けを引き下げたこと、7月のFOMC議事録で政策金利引き上げ継続の可能性が議論されていたこと、ジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムでパウエルFRB議長が景気動向によっては追加利上げの可能性を示唆したものの、更なる金融引き締めへの過度な警戒感が後退したこと
- ・ 9月、FOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたものの、年内に追加利上げを行なうことが示唆されたこと
- ・ 10月、米下院議長選挙での選出が遅れ政治的な混乱が生じたこと、大手IT企業の決算において先行き不透明感が強まったこと
- ・ 11月、10月の米雇用統計や10月の米CPIが市場予想を下回り、FRBによる利上げサイクルの終了期待が高まったこと

<Aコース>

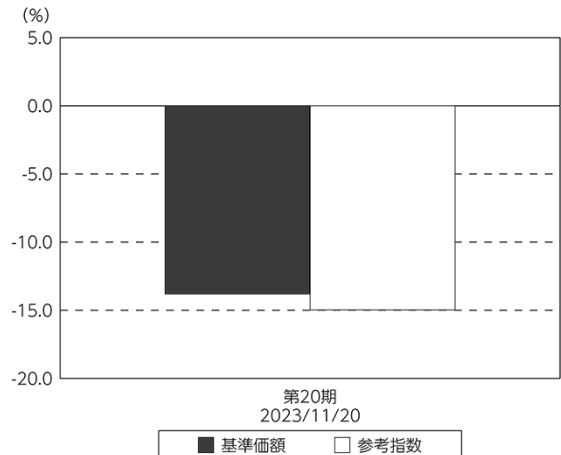
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円ヘッジベース）の15.0%の下落に対し、基準価額は13.8%の下落となりました。主なプラスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を下回った米国の遺伝的機能・変異の大規模解析ツール開発会社株をアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とした一方、株価騰落率が参考指数を上回ったアルジェンX株をオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としたことなどが挙げられます。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円ヘッジベース）です。

◎分配金

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり500円の収益分配を行ないました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項目	第20期
	2022年11月19日～ 2023年11月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	500 3.069%
当期の収益	—
当期の収益以外	500
翌期繰越分配対象額	13,588

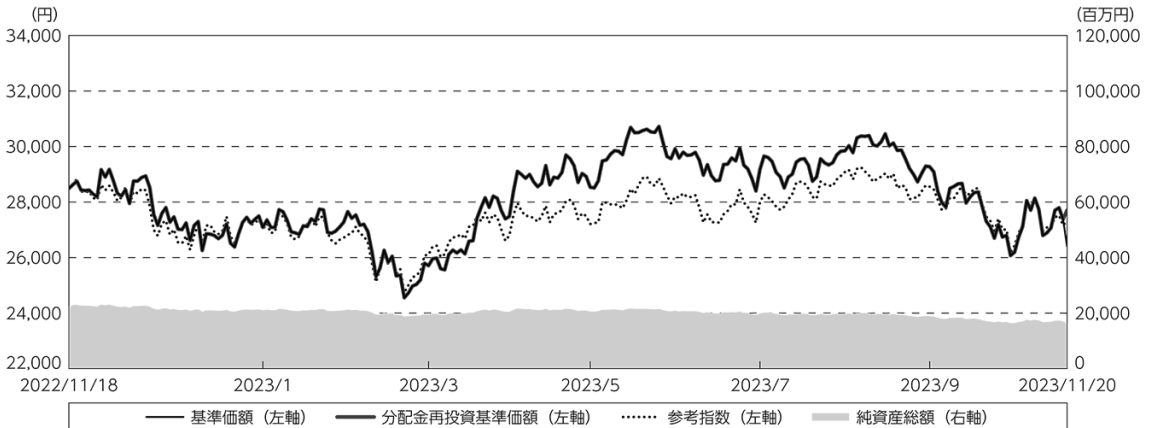
(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<Bコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期首：28,491円

期末：26,405円 (既払分配金(税込み)：1,300円)

騰落率：△2.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2022年11月18日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円換算ベース)です。参考指数は、作成期首(2022年11月18日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首28,491円から期末26,405円となりました。

- ・2022年12月、FRB(米連邦準備制度理事会)の利上げペースの減速に加え、日銀が金融緩和策を見直し実質的な利上げに転換したことから日米金利差の縮小期待が強まり、円高・ドル安となったこと
- ・2023年1月、2022年12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことや、米国のISM非製造業景況感指数が市場予想に反して低下したことなどから、FRBの金融引き締め長期化への警戒が和らいだこと、12月の米CPI(消費者物価指数)上昇率が前月比で低下したことなどにより、FRBの利上げペースの更なる鈍化が期待されたこと、FRBの利上げペースが減速していることに加え、日銀が現状の金融緩和策の維持を決定したことで、日米金利差の拡大期待が後退し、円高・ドル安となったこと

<Bコース>

- ・ 2月、1月の米CPI上昇率や2月の米PMI（購買担当者景気指数）などが市場予想を上回ったことでFRBによる利上げ長期化への警戒感が高まったこと、FRBの利上げ長期化観測に加え、日銀の金融緩和策の継続への期待から日米金利差が拡大し、円安・ドル高となったこと
- ・ 3月、米地銀の経営破綻をきっかけに信用不安が広がったこと、FRBの利上げ打ち止め観測を背景に米長期国債利回りの低下・日米金利差の縮小により、円高・ドル安となったこと
- ・ 4月、3月の米PPI（生産者物価指数）上昇率（前月比）が市場予想を下回るなどインフレ率の鈍化傾向が見られたことから、利上げ打ち止め期待が高まったこと
- ・ 6月、5月の米ISM製造業景況感指数が7ヵ月連続で景気の拡大・後退の分岐点となる50を下回ったことや、5月の米雇用統計において失業率が上昇し平均時給の伸びも鈍化したことなどから、中旬に開催されるFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと、FRBの金融引き締め継続と日銀の大規模な金融緩和策の維持が示されたことなどから日米金利差の拡大期待が強まり、為替市場で円安・ドル高となったこと
- ・ 7月、6月の米CPI上昇率が市場予想を下回りFOMCにおいて政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと、大手金融機関などの4－6月期決算が市場予想を上回ったこと、FOMCにおいて政策金利の据え置きが決定される一方で日銀がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用柔軟化を発表し、日米金利差が縮小し、為替市場で円高・ドル安となったこと
- ・ 8月、大手格付機関が米国債の格付けを引き下げたこと、7月のFOMC議事録で政策金利引き上げ継続の可能性が議論されていたこと、ジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムでパウエルFRB議長が景気動向によっては追加利上げの可能性を示唆したものの、更なる金融引き締めへの過度な警戒感が後退したこと、FRBの金融引き締め継続観測などから日米金利差の拡大期待が強まり、為替市場で円安・ドル高となったこと
- ・ 9月、FOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたものの、年内に追加利上げを行なうことが示唆されたこと
- ・ 10月、米下院議長選挙での選出が遅れ政治的な混乱が生じたこと、大手IT企業の決算において先行き不透明感が強まったこと
- ・ 11月、10月の米雇用統計や10月の米CPIが市場予想を下回り、FRBによる利上げサイクルの終了期待が高まったこと

<Bコース>

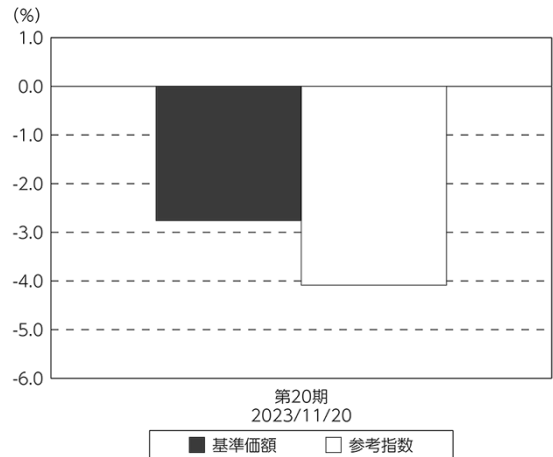
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）の4.1%の下落に対し、基準価額は2.8%の下落となりました。主なプラスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を下回った米国の遺伝的機能・変異の大規模解析ツール開発会社株をアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とした一方、株価騰落率が参考指数を上回ったアルジェンX株をオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としたことなどが挙げられます。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。

◎分配金

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり1,300円の収益分配を行ないました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項目	第20期
	2022年11月19日～ 2023年11月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	1,300 4.692%
当期の収益	—
当期の収益以外	1,300
翌期繰越分配対象額	16,405

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<Aコース/Bコース>

○投資環境

期中のナスダック・バイオテクノロジー株指数は、ロシアによるウクライナへの侵攻の長期化や米国金融政策の行方に対する市場の見方が不安定な状況が続き、米国金利の高止まりなどから米国の景気減速懸念が強まりました。こうした環境下、期末にかけバイオテクノロジー株は中小型銘柄を中心に下落基調を強める形となりました。

為替市場では、期初の140円台で始まったドル円レートは、日米の金利差の縮小期待などを背景に一時127円台まで円高が進みましたが、期末にかけ再び日米金利差の拡大見通しが強まったことなどから、期末には149円台となりました。

<Aコース/Bコース>

○当ファンドのポートフォリオ

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース] および [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース] は、主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

- (1) 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- (2) 画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業などに注目した他、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行なって参りました。
- (3) また、薬価問題への関心が高まる中、高いイノベーション（技術革新）能力と戦略的展望のある企業にも注目し、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）分析を行なった他、科学面および臨床データの評価や、未だ満たされていない医療ニーズの重要度、薬価や治療薬への患者のアクセスの妥当性などを考慮し銘柄選定を行ないました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース]

・株式組入比率

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、実質外貨建資産に対して対円での為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図りました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース]

・株式組入比率

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、為替ヘッジを行ないませんでした。

<Aコース/Bコース>

◎今後の運用方針

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・投資環境

バイオ医薬品株式市場では、M&A（企業の合併・買収）の大型案件が相次いで発表されており、この傾向は継続するものと期待しております。特にフェーズ2（臨床試験の中間段階）で良好な治験結果が示された治療薬候補を有しているといった、買収後のリスクの低い銘柄が注目されます。ただし、マクロ経済環境については、バイオ医薬品株式のセンチメント（市場心理）に大きな影響を与えることから、引き続き注視が必要と考えます。

中長期的には、医薬品に関連する医療費についての議論が大きく変化していることがわかります。いくつかの国では治療の有効性に応じて医療費を支払う制度（価値に基づく医療）が利用されていますが、処方薬で最大のマーケットである米国においても、同様の制度を求める声は、ますます大きくなっています。医薬品企業と同様に、政府、規制当局、保険業者は、医薬品の開発においてイノベーションを抑制することなく、医薬品の費用を効率的に管理することができる妥協案を見つけることを必要としています。最も重要な利害関係者である患者は、破産のリスクにさらされることなく、高品質の治療を受けたいと考えています。これは、治療薬の開発といった科学的側面だけでなく、ビジネスモデルや先進的な思考、価値に基づいた契約といった側面においてもイノベーションを生む最高の機会となると考えます。

・運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると考えます。綿密なファンダメンタルズ分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建資産については為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを目指します。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建資産については為替ヘッジを行なわない方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

<Aコース>

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月19日～2023年11月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 382	% 2.101	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(201)	(1.106)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(161)	(0.885)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(20)	(0.111)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	15	0.081	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(15)	(0.081)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.003	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(1)	(0.003)	
(d) そ の 他 費 用	5	0.027	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(4)	(0.023)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	403	2.212	
期中の平均基準価額は、18,157円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

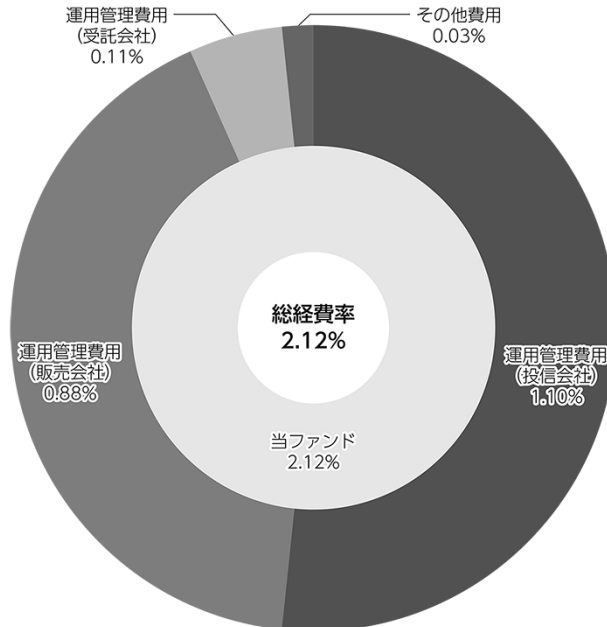
* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

<Aコース>

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.12%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託事務の処理に要するその他の諸費用等が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

<Aコース>

○売買及び取引の状況

(2022年11月19日～2023年11月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	1,231,842	8,992,230	1,829,905	13,601,810

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2022年11月19日～2023年11月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	58,914,363千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	32,348,323千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.82	

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年11月19日～2023年11月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年11月20日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	1,906,744	1,308,681	9,646,556

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

<Aコース>

○投資信託財産の構成

(2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	9,646,556	93.1
コール・ローン等、その他	714,194	6.9
投資信託財産総額	10,360,750	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(26,848,950千円)の投資信託財産総額(27,231,493千円)に対する比率は98.6%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=149.95円、1デンマーククローネ=21.93円、1ユーロ=163.54円、1香港ドル=19.23円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	19,942,212,722
コール・ローン等	288,040,203
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド(評価額)	9,646,556,072
未収入金	10,007,616,447
(B) 負債	10,201,681,048
未払金	9,724,495,049
未払収益分配金	308,369,184
未払解約金	36,570,515
未払信託報酬	132,037,651
未払利息	227
その他未払費用	208,422
(C) 純資産総額(A-B)	9,740,531,674
元本	6,167,383,690
次期繰越損益金	3,573,147,984
(D) 受益権総口数	6,167,383,690口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,794円

(注) 期首元本額は7,621,775,325円、期中追加設定元本額は476,811,427円、期中一部解約元本額は1,931,203,062円、1口当たり純資産額は1,5794円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額250,472,851円。(ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド)

○損益の状況

(2022年11月19日～2023年11月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 97,392
受取利息	53
支払利息	△ 97,445
(B) 有価証券売買損益	△1,334,889,032
売買益	1,452,834,625
売買損	△2,787,723,657
(C) 信託報酬等	△ 283,094,971
(D) 当期損益金(A+B+C)	△1,618,081,395
(E) 前期繰越損益金	△1,619,682,844
(F) 追加信託差損益金	7,119,281,407
(配当等相当額)	(7,358,509,313)
(売買損益相当額)	(△ 239,227,906)
(G) 計(D+E+F)	3,881,517,168
(H) 収益分配金	△ 308,369,184
次期繰越損益金(G+H)	3,573,147,984
追加信託差損益金	7,119,281,407
(配当等相当額)	(7,358,725,841)
(売買損益相当額)	(△ 239,444,434)
分配準備積立金	1,021,893,769
繰越損益金	△4,568,027,192

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<Aコース>

(注) 分配金の計算過程 (2022年11月19日～2023年11月20日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2022年11月19日～ 2023年11月20日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	7,358,725,841円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	1,330,262,953円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	8,688,988,794円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	14,088円
g. 分配金	308,369,184円
h. 分配金(1万円当たり)	500円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	500円
----------------	------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

<Bコース>

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月19日～2023年11月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 588	% 2.101	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(309)	(1.106)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(247)	(0.885)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(31)	(0.111)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	23	0.083	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(23)	(0.083)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.003	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(1)	(0.003)	
(d) そ の 他 費 用	7	0.026	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(6)	(0.022)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	619	2.213	
期中の平均基準価額は、27,966円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

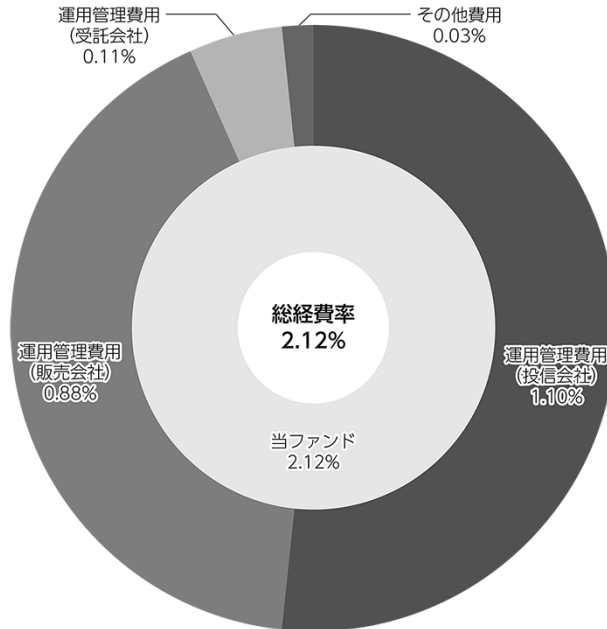
* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

<Bコース>

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.12%です。



(注) 当ファンドの費用は1万円当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託事務の処理に要するその他の諸費用等が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

<Bコース>

○売買及び取引の状況

(2022年11月19日～2023年11月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	1,249,953	9,286,263	1,983,331	14,787,350

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2022年11月19日～2023年11月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	58,914,363千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	32,348,323千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.82	

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年11月19日～2023年11月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年11月20日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	2,944,706	2,211,329	16,300,151

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

<Bコース>

○投資信託財産の構成

(2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	16,300,151	93.4
コール・ローン等、その他	1,152,458	6.6
投資信託財産総額	17,452,609	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(26,848,950千円)の投資信託財産総額(27,231,493千円)に対する比率は98.6%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=149.95円、1デンマーククローネ=21.93円、1ユーロ=163.54円、1香港ドル=19.23円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	17,452,609,980
コール・ローン等	307,458,906
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド(評価額)	16,300,151,074
未収入金	845,000,000
(B) 負債	1,071,550,185
未払収益分配金	806,486,178
未払解約金	57,615,599
未払信託報酬	207,121,196
未払利息	242
その他未払費用	326,970
(C) 純資産総額(A-B)	16,381,059,795
元本	6,203,739,836
次期繰越損益金	10,177,319,959
(D) 受益権総口数	6,203,739,836口
1万口当たり基準価額(C/D)	26,405円

(注) 期首元本額は7,743,818,917円、期中追加設定元本額は469,913,982円、期中一部解約元本額は2,009,993,063円、1口当たり純資産額は2,6405円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額250,472,851円。(ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド)

○損益の状況

(2022年11月19日~2023年11月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 77,937
受取利息	75
支払利息	△ 78,012
(B) 有価証券売買損益	△ 63,388,804
売買益	429,186,998
売買損	△ 492,575,802
(C) 信託報酬等	△ 425,825,569
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 489,292,310
(E) 前期繰越損益金	1,913,975,490
(F) 追加信託差損益金	9,559,122,957
(配当等相当額)	(6,632,455,971)
(売買損益相当額)	(2,926,666,986)
(G) 計(D+E+F)	10,983,806,137
(H) 収益分配金	△ 806,486,178
次期繰越損益金(G+H)	10,177,319,959
追加信託差損益金	9,559,122,957
(配当等相当額)	(6,632,707,855)
(売買損益相当額)	(2,926,415,102)
分配準備積立金	1,107,489,312
繰越損益金	△ 489,292,310

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<Bコース>

(注) 分配金の計算過程 (2022年11月19日～2023年11月20日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2022年11月19日～ 2023年11月20日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	9,069,830,647円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	1,913,975,490円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	10,983,806,137円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	17,705円
g. 分配金	806,486,178円
h. 分配金(1万円当たり)	1,300円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	1,300円
----------------	--------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド

運用報告書

第20期（決算日2023年11月20日）

作成対象期間（2022年11月19日～2023年11月20日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して、投資銘柄を選定します。 株式の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資対象	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場・未登録の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株組入比率	株先物比率	純資産額
	期騰落	中率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	期騰落中率			
	円	%		%	%	%	百万円
16期(2019年11月18日)	51,086	10.1	533.08	2.3	96.2	—	90,726
17期(2020年11月18日)	65,738	28.7	643.01	20.6	95.8	—	57,340
18期(2021年11月18日)	71,089	8.1	770.40	19.8	97.9	—	44,816
19期(2022年11月18日)	74,228	4.4	829.19	7.6	94.4	—	36,011
20期(2023年11月20日)	73,712	△0.7	795.32	△4.1	95.9	—	25,946

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数(=ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円換算ベース))は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(US\$ベース)を当社が独自に円換算したものです。なお、算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日の対顧客電信売買相場仲値で円換算しております。
(出所)ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

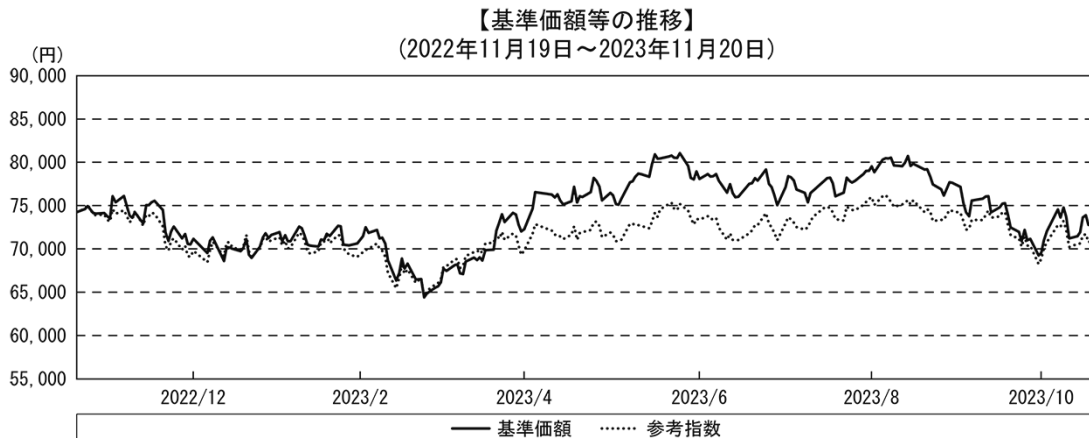
年月日	基準価額		参考指数		株組入比率	株先物比率
	騰落	率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2022年11月18日	74,228	—	829.19	—	94.4	—
11月末	73,492	△1.0	817.23	△1.4	94.3	—
12月末	71,145	△4.2	779.41	△6.0	95.3	—
2023年1月末	70,873	△4.5	786.40	△5.2	94.9	—
2月末	71,012	△4.3	775.31	△6.5	98.2	—
3月末	67,464	△9.1	759.67	△8.4	97.1	—
4月末	72,254	△2.7	779.82	△6.0	98.1	—
5月末	75,163	1.3	791.83	△4.5	98.1	—
6月末	78,082	5.2	819.71	△1.1	96.7	—
7月末	77,122	3.9	814.99	△1.7	96.4	—
8月末	79,518	7.1	848.62	2.3	97.7	—
9月末	77,629	4.6	830.97	0.2	97.7	—
10月末	69,553	△6.3	769.05	△7.3	97.9	—
(期末)						
2023年11月20日	73,712	△0.7	795.32	△4.1	95.9	—

*騰落率は期首比です。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首74,228円から期末73,712円となりました。

- ・ 2022年12月、FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げペースの減速に加え、日銀が金融緩和策を見直し実質的な利上げに転換したことから日米金利差の縮小期待が強まり、円高・ドル安となったこと
- ・ 2023年1月、2022年12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことや、米国のISM非製造業景況感指数が市場予想に反して低下したことなどから、FRBの金融引き締め長期化への警戒が和らいだこと、12月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が前月比で低下したことなどにより、FRBの利上げペースの更なる鈍化が期待されたこと、FRBの利上げペースが減速していることに加え、日銀が現状の金融緩和策の維持を決定したことで、日米金利差の拡大期待が後退し、円高・ドル安となったこと
- ・ 2月、1月の米CPI上昇率や2月の米PMI（購買担当者景気指数）などが市場予想を上回ったことでFRBによる利上げ長期化への警戒感が高まったこと、FRBの利上げ長期化観測に加え、日銀の金融緩和策の継続への期待から日米金利差が拡大し、円安・ドル高となったこと
- ・ 3月、米地銀の経営破綻をきっかけに信用不安が広がったこと、FRBの利上げ打ち止め観測を背景に米長期国債利回りの低下・日米金利差の縮小により、円高・ドル安となったこと

- ・ 4月、3月の米PPI（生産者物価指数）上昇率（前月比）が市場予想を下回るなどインフレ率の鈍化傾向が見られたことから、利上げ打ち止め期待が高まったこと
- ・ 6月、5月の米ISM製造業景況感指数が7ヵ月連続で景気の拡大・後退の分岐点となる50を下回ったことや、5月の米雇用統計において失業率が上昇し平均時給の伸びも鈍化したことなどから、中旬に開催されるFOMC（米連邦公開市場委員会）において政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと、FRBの金融引き締め継続と日銀の大規模な金融緩和策の維持が示されたことなどから日米金利差の拡大期待が強まり、為替市場で円安・ドル高となったこと
- ・ 7月、6月の米CPI上昇率が市場予想を下回りFOMCにおいて政策金利が据え置かれるとの期待が高まったこと、大手金融機関などの4－6月期決算が市場予想を上回ったこと、FOMCにおいて政策金利の据え置きが決定される一方で日銀がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用柔軟化を発表し、日米金利差が縮小し、為替市場で円高・ドル安となったこと
- ・ 8月、大手格付機関が米国債の格付けを引き下げたこと、7月のFOMC議事録で政策金利引き上げ継続の可能性が議論されていたこと、ジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムでパウエルFRB議長が景気動向によっては追加利上げの可能性を示唆したものの、更なる金融引き締めへの過度な警戒感が後退したこと、FRBの金融引き締め継続観測などから日米金利差の拡大期待が強まり、為替市場で円安・ドル高となったこと
- ・ 9月、FOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたものの、年内に追加利上げを行なうことが示唆されたこと
- ・ 10月、米下院議長選挙での選出が遅れ政治的な混乱が生じたこと、大手IT企業の決算において先行き不透明感が強まったこと
- ・ 11月、10月の米雇用統計や10月の米CPIが市場予想を下回り、FRBによる利上げサイクルの終了期待が高まったこと

○投資環境

期中のナスダック・バイオテクノロジー株指数は、ロシアによるウクライナへの侵攻の長期化や米国金融政策の行方に対する市場の見方が不安定な状況が続き、米国金利の高止まりなどから米国の景気減速懸念が強まりました。こうした環境下、期末にかけバイオテクノロジー株は中小型銘柄を中心に下落基調を強める形となりました。

為替市場では、期初の140円台で始まったドル円レートは、日米の金利差の縮小期待などを背景に一時127円台まで円高が進みましたが、期末にかけ再び日米金利差の拡大見通しが強まったことなどから、期末には149円台となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

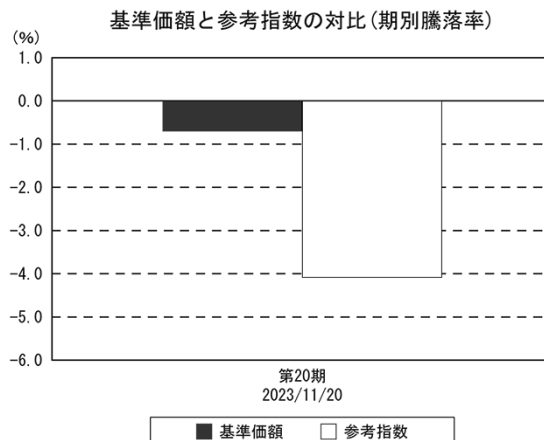
- (1) 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- (2) 画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業などに注目した他、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行なって参りました。
- (3) また、薬価問題への関心が高まる中、高いイノベーション（技術革新）能力と戦略的展望のある企業にも注目し、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）分析を行なった他、科学面および臨床データの評価や、未だ満たされていない医療ニーズの重要度、薬価や治療薬への患者のアクセスの妥当性などを考慮し銘柄選定を行ないました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）の4.1%の下落に対し、基準価額は0.7%の下落となりました。主なプラスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を下回った米国の遺伝的機能・変異の大規模解析ツール開発会社株をアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とした一方、株価騰落率が参考指数を上回ったアルジェンX株をオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としたことなどが挙げられます。



(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。

◎今後の運用方針

○投資環境

バイオ医薬品株式市場では、M&A（企業の合併・買収）の大型案件が相次いで発表されており、この傾向は継続するものと期待しております。特にフェーズ2（臨床試験の中間段階）で良好な治験結果が示された治療薬候補を有しているといった、買収後のリスクの低い銘柄が注目されます。ただし、マクロ経済環境については、バイオ医薬品株式のセンチメント（市場心理）に大きな影響を与えることから、引き続き注視が必要と考えます。

中長期的には、医薬品に関連する医療費についての議論が大きく変化していることがわかります。いくつかの国では治療の有効性に依拠して医療費を支払う制度（価値に基づく医療）が利用されていますが、処方薬で最大のマーケットである米国においても、同様の制度を求める声は、ますます大きくなっています。医薬品企業と同様に、政府、規制当局、保険業者は、医薬品の開発においてイノベーションを抑制することなく、医薬品の費用を効率的に管理することができる妥協案を見つけることを必要としています。最も重要な利害関係者である患者は、破産のリスクにさらされることなく、高品質の治療を受けたいと考えています。これは、治療薬の開発といった科学的側面だけでなく、ビジネスモデルや先進的な思考、価値に基づいた契約といった側面においてもイノベーションを生む最高の機会となると考えます。

○運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると考えます。綿密なファンダメンタルズ分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月19日～2023年11月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 60 (60)	% 0.082 (0.082)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	2 (2)	0.003 (0.003)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	16 (16) (0)	0.022 (0.022) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	78	0.107	
期中の平均基準価額は、73,608円です。			

*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年11月19日～2023年11月20日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外	アメリカ	百株 47,906 (167)	千米ドル 177,958 (-)	百株 71,546 (148)	千米ドル 232,677 (2,897)
	スイス	-	千スイスフラン -	111	千スイスフラン 3,481
	デンマーク	-	千デンマーククローネ -	74	千デンマーククローネ 18,419
	ユーロ	-	千ユーロ -	-	千ユーロ -
国	フランス	662	1,129	-	-
	香港	- (1,926)	千香港ドル - (22,613)	1,926	千香港ドル 22,211

*金額は受け渡し代金。

*単位未満は切り捨て。

* ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年11月19日～2023年11月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	58,914,363千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	32,348,323千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.82

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年11月19日～2023年11月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年11月20日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
			千米ドル	千円	
(アメリカ)	百株	百株			
AEGLEA BIOTHERAPEUTICS INC	2,731	—	—	—	バイオテクノロジー
ALNYLAM PHARMACEUTICALS INC	270	253	4,155	623,063	バイオテクノロジー
ALTIMMUNE INC	755	—	—	—	バイオテクノロジー
AMGEN INC	189	398	10,572	1,585,282	バイオテクノロジー
AMICUS THERAPEUTICS INC	6,734	2,086	2,248	337,235	バイオテクノロジー
ANNEXON INC	2,035	911	237	35,543	バイオテクノロジー
APELLIS PHARMACEUTICALS INC	216	638	3,133	469,833	バイオテクノロジー
ARCELLX INC	—	113	627	94,046	バイオテクノロジー
ARCUS BIOSCIENCES INC	1,028	—	—	—	バイオテクノロジー
ARCUTIS BIOTHERAPEUTICS INC	1,480	—	—	—	バイオテクノロジー
ARGENX SE-ADR	336	216	10,625	1,593,229	バイオテクノロジー
ARVINAS INC	431	—	—	—	医薬品
AXSOME THERAPEUTICS INC	—	371	2,223	333,363	医薬品
BEAM THERAPEUTICS INC	—	297	817	122,581	バイオテクノロジー
BEIGENE, LTD ADR	118	—	—	—	バイオテクノロジー
BELLUS HEALTH INC	6,511	—	—	—	バイオテクノロジー
BIOCRYST PHARMACEUTICALS INC	4,257	—	—	—	バイオテクノロジー
BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	517	476	4,171	625,471	バイオテクノロジー
BIOGEN INC	356	391	8,923	1,338,107	バイオテクノロジー
BLUEPRINT MEDICINES CORP	—	680	4,334	649,936	バイオテクノロジー
BRIDGEBIO PHARMA INC	—	1,392	4,074	610,935	バイオテクノロジー
CARIBOU BIOSCIENCES INC	3,018	919	479	71,970	バイオテクノロジー
CELLEX THERAPEUTICS INC	—	1,635	4,756	713,255	バイオテクノロジー
CHINOOK THERAPEUTICS INC	784	—	—	—	バイオテクノロジー
CYTOKINETICS INC	1,594	1,048	3,401	509,991	バイオテクノロジー
DAY ONE BIOPHARMACEUTICALS	—	1,019	1,237	185,634	バイオテクノロジー
DENALI THERAPEUTICS INC	847	423	794	119,161	バイオテクノロジー
89BIO INC	—	1,649	1,304	195,600	バイオテクノロジー
FATE THERAPEUTICS INC	1,243	—	—	—	バイオテクノロジー
GILEAD SCIENCES INC	1,829	302	2,280	342,013	バイオテクノロジー
GUARDANT HEALTH INC	325	—	—	—	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス
IDEAYA BIOSCIENCES INC	—	447	1,359	203,804	バイオテクノロジー
ILLUMINA INC	367	—	—	—	ライフサイエンス・ツール/サービス
IMMUNOGEN INC	—	3,073	4,951	742,449	バイオテクノロジー
IMMUNOCORE HOLDINGS PLC ADR	99	513	2,410	361,491	バイオテクノロジー
IMMUNOVANT INC	—	947	3,205	480,673	バイオテクノロジー
INCYTE CORP	339	229	1,246	186,851	バイオテクノロジー
INSMED INC	3,182	1,245	3,090	463,444	バイオテクノロジー
INTELLIA THERAPEUTICS INC	530	622	1,749	262,284	バイオテクノロジー
INTRA-CELLULAR THERAPIES INC	600	1,109	6,345	951,535	医薬品
IONIS PHARMACEUTICALS INC	—	1,296	6,348	951,975	バイオテクノロジー
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	2,963	3,053	1,541	231,201	バイオテクノロジー
KARUNA THERAPEUTICS INC	143	161	2,903	435,358	バイオテクノロジー
KRYSTAL BIOTECH INC	637	87	910	136,570	バイオテクノロジー
KYMERA THERAPEUTICS INC	190	—	—	—	バイオテクノロジー
MIRATI THERAPEUTICS INC	219	—	—	—	バイオテクノロジー

銘 柄	株 数	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
		株 数	株 数	評 価 額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円		
MIRUM PHARMACEUTICALS INC	—	376	1,216	182,350		バイオテクノロジー
MODERNA INC	828	—	—	—		バイオテクノロジー
MOLECULAR TEMPLATES INC	2,630	—	—	—		バイオテクノロジー
MOONLAKE IMMUNOTHERAPEUTICS	—	430	1,839	275,837		バイオテクノロジー
MORPHIC HOLDING INC	—	1,463	3,423	513,345		バイオテクノロジー
NATERA INC	1,238	556	2,977	446,521		バイオテクノロジー
NEUROCRINE BIOSCIENCES INC	355	427	4,660	698,802		バイオテクノロジー
NURIX THERAPEUTICS INC	861	—	—	—		バイオテクノロジー
PLIANT THERAPEUTICS INC	—	733	1,040	155,967		医薬品
REGENERON PHARMACEUTICALS	167	72	5,820	872,833		バイオテクノロジー
RHYTHM PHARMACEUTICALS INC	—	365	1,234	185,117		バイオテクノロジー
ROCKET PHARMACEUTICALS INC	—	294	646	97,004		バイオテクノロジー
SAREPTA THERAPEUTICS INC	424	283	2,355	353,165		バイオテクノロジー
SEAGEN INC	463	—	—	—		バイオテクノロジー
SPRINGWORKS THERAPEUTICS INC	1,043	645	1,385	207,787		バイオテクノロジー
STRUCTURE THERAPEUTICS INC	—	100	541	81,136		医薬品
TG THERAPEUTICS INC	—	1,019	1,231	184,598		バイオテクノロジー
UNITED THERAPEUTICS CORP	184	—	—	—		バイオテクノロジー
VAXCYTE INC	—	979	5,040	755,808		バイオテクノロジー
VENTYX BIOSCIENCES INC	993	—	—	—		医薬品
VERACYTE INC	838	—	—	—		バイオテクノロジー
VERA THERAPEUTICS INC	—	955	1,308	196,220		バイオテクノロジー
VERTEX PHARMACEUTICALS	378	216	7,575	1,135,872		バイオテクノロジー
VIRIDIAN THERAPEUTICS INC	—	826	1,312	196,859		バイオテクノロジー
XENON PHARMACEUTICALS INC	1,854	1,510	4,446	666,823		バイオテクノロジー
ALKERMES PLC	—	1,671	4,052	607,714		バイオテクノロジー
BIOHAVEN LTD	—	285	859	128,858		バイオテクノロジー
HORIZON THERAPEUTICS PLC	1,456	—	—	—		バイオテクノロジー
KINIKSA PHARMACEUTICALS-A	2,566	1,126	1,770	265,481		バイオテクノロジー
MURAL ONCOLOGY PLC	—	167	82	12,384		バイオテクノロジー
ADC THERAPEUTICS SA	965	—	—	—		バイオテクノロジー
AFFIMED NV	2,870	—	—	—		バイオテクノロジー
MERUS NV	—	870	2,114	317,031		バイオテクノロジー
小 計	株 数 ・ 金 額	67,014	43,394	163,397	24,501,421	
	銘 柄 数 < 比 率 >	52	55	—	< 94.4% >	
(スイス)				千スイスフラン		
ROCHE HOLDING (GENUSSCHEINE)	111	—	—	—		医薬品
小 計	株 数 ・ 金 額	111	—	—	—	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	—	—	< -% >	
(デンマーク)				千デンマーククローネ		
GENMAB A/S	130	55	12,293	269,591		バイオテクノロジー
小 計	株 数 ・ 金 額	130	55	12,293	269,591	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	—	< 1.0% >	
(ユーロ…フランス)				千ユーロ		
ABIVAX SA	—	662	686	112,201		バイオテクノロジー
ユ ー ロ 計	株 数 ・ 金 額	—	662	686	112,201	
	銘 柄 数 < 比 率 >	—	1	—	< 0.4% >	
合 計	株 数 ・ 金 額	67,257	44,111	—	24,883,214	
	銘 柄 数 < 比 率 >	54	57	—	< 95.9% >	

* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

* 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

* 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○投資信託財産の構成

(2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	24,883,214	91.4
コール・ローン等、その他	2,348,279	8.6
投資信託財産総額	27,231,493	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*当期末における外貨建純資産(26,848,950千円)の投資信託財産総額(27,231,493千円)に対する比率は98.6%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=149.95円、1デンマーククローネ=21.93円、1ユーロ=163.54円、1香港ドル=19.23円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年11月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	28,200,475,369
コール・ローン等	2,245,370,309
株式(評価額)	24,883,214,015
未収入金	1,060,440,022
未収配当金	11,451,023
(B) 負債	2,253,822,406
未払金	1,067,822,178
未払解約金	1,186,000,000
未払利息	228
(C) 純資産総額(A-B)	25,946,652,963
元本	3,520,011,280
次期繰越損益金	22,426,641,683
(D) 受益権総口数	3,520,011,280口
1万口当たり基準価額(C/D)	73,712円

(注) 期首元本額は4,851,451,485円、期中追加設定元本額は2,481,796,304円、期中一部解約元本額は3,813,236,509円、1口当たり純資産額は7,3712円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額
 ・ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース 2,211,329,373円
 ・ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース 1,308,681,907円

○損益の状況 (2022年11月19日～2023年11月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	94,619,828
受取配当金	64,429,516
受取利息	25,991,250
その他収益金	4,550,799
支払利息	△ 351,737
(B) 有価証券売買損益	△ 41,416,940
売買益	9,034,788,837
売買損	△ 9,076,205,777
(C) 保管費用等	△ 7,407,630
(D) 当期損益金(A+B+C)	45,795,258
(E) 前期繰越損益金	31,160,073,220
(F) 追加信託差損益金	15,796,696,696
(G) 解約差損益金	△24,575,923,491
(H) 計(D+E+F+G)	22,426,641,683
次期繰越損益金(H)	22,426,641,683

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。